









あ
あ
あ

あ
あ
あ

キ
ッ

ク
ッ













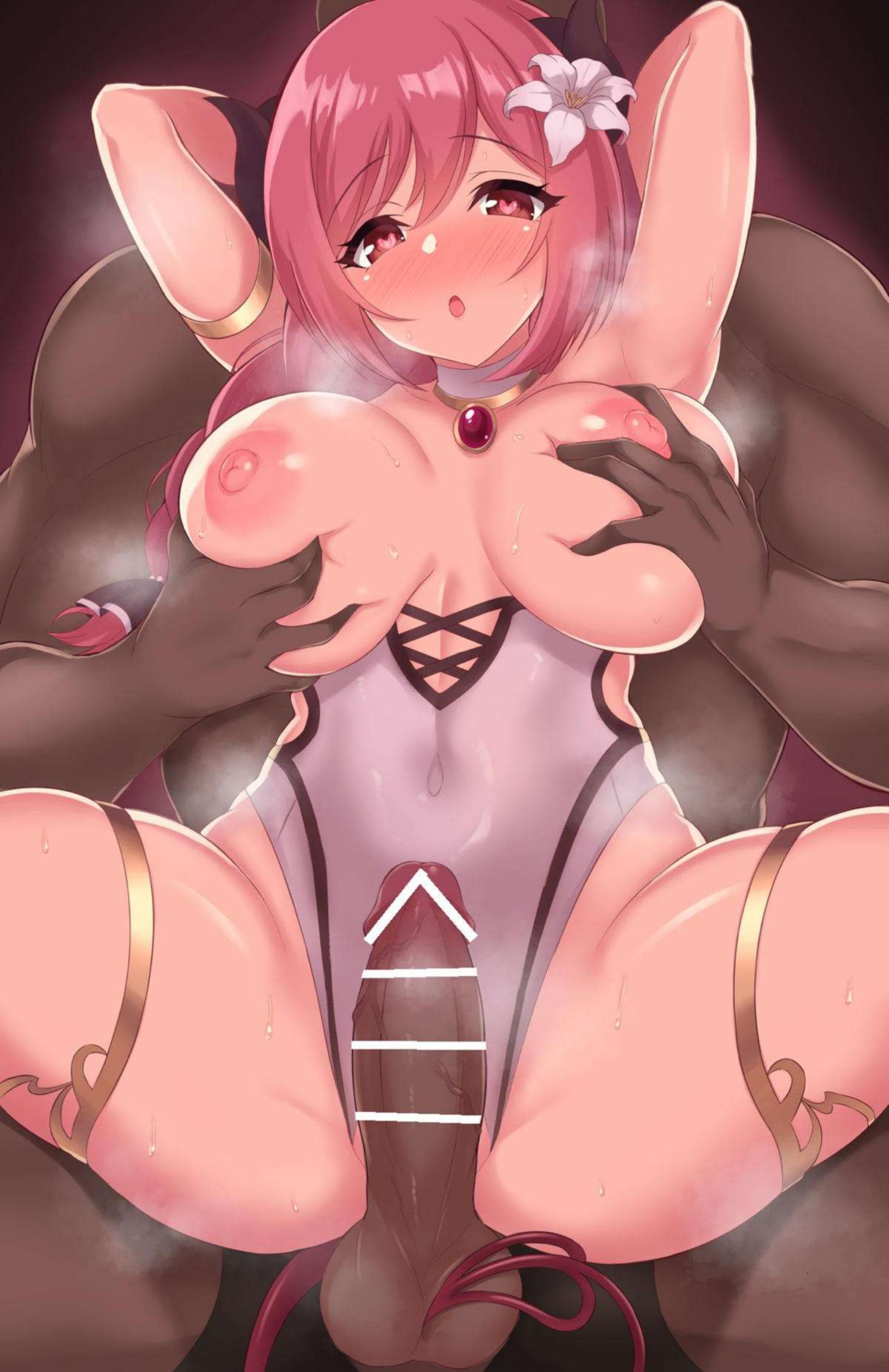


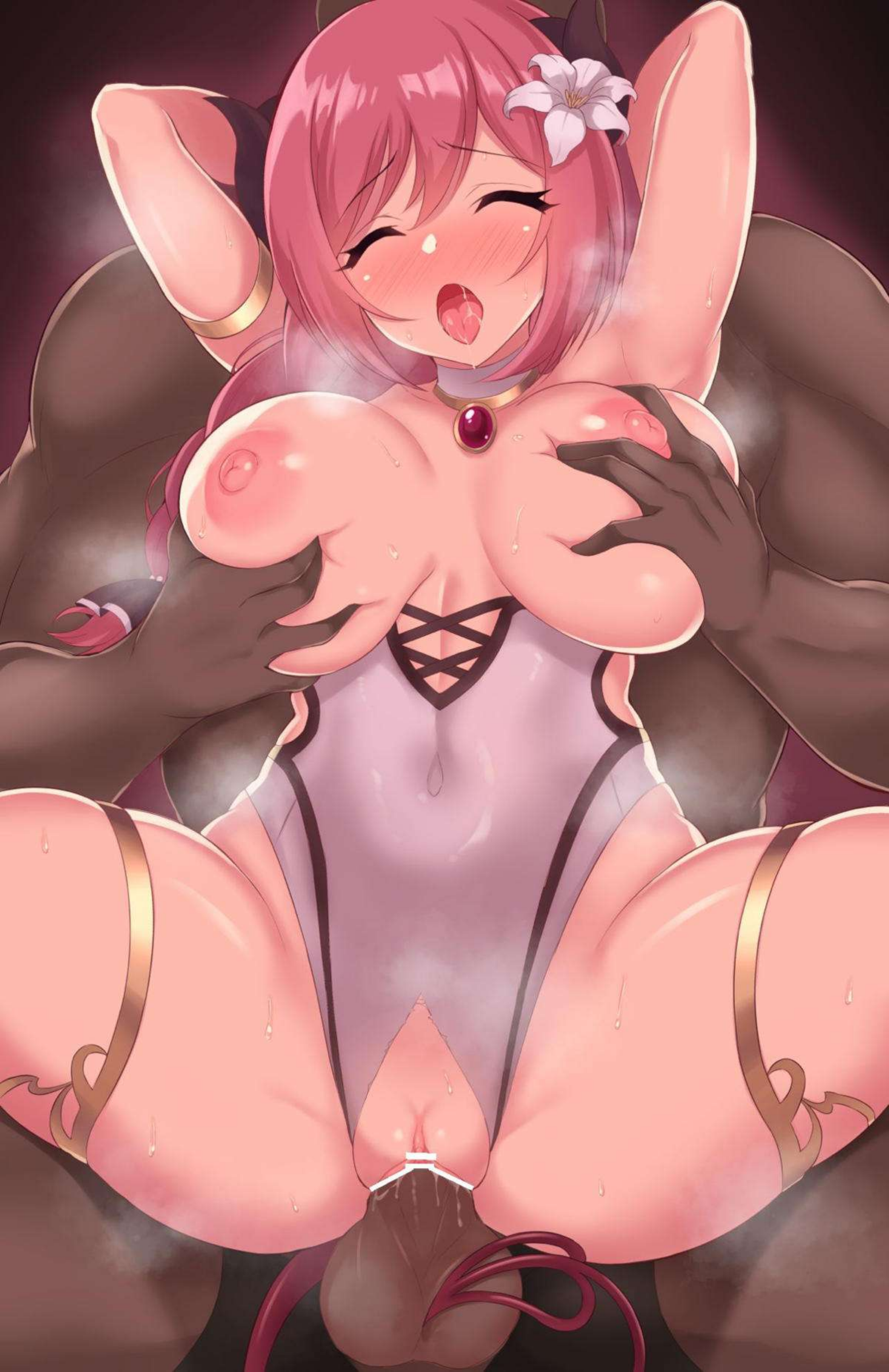














































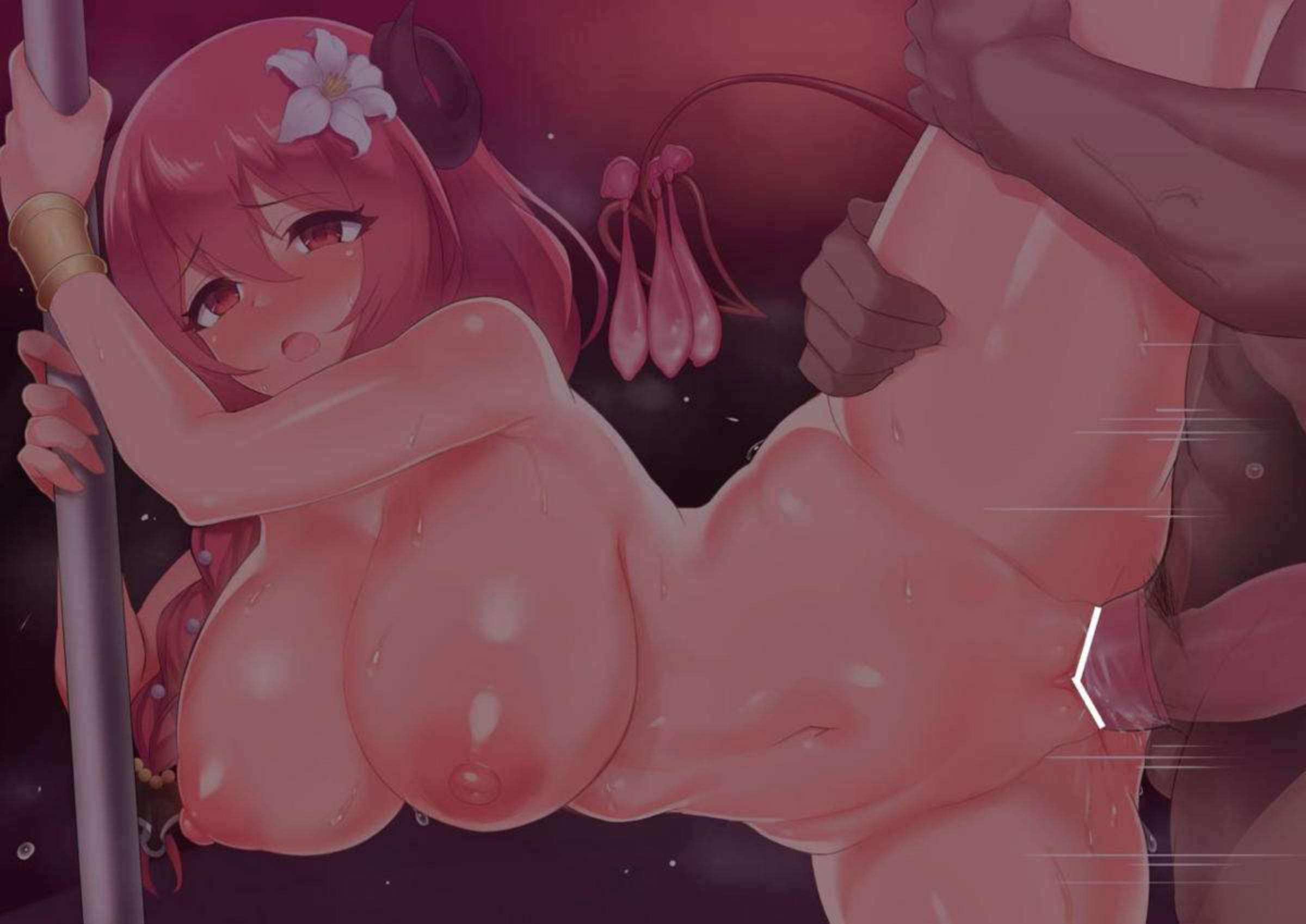


























「~~~~~いやらしい眺めだな」

男は下衆な笑みを浮かべながら
ポールダンスを踊るイオを眺めていた。

「あ…あの、本当にあなたの言う通りにすれば
生徒たちに手を出さないでいてくれるの…?」

「もちろんだよ先生」

ただし、俺が満足するまで踊ってくれたらだけどね」

「わ、わかったわ…約束してね…」

イオは弱々しい腰使いで必死に踊り続けた

(ああ…どうしてこんなこと…)



「ほら、腰動かすの手伝ってあげるよ」
男はイオの片足をがっしり掴みながら
コンドームを着けたペニスを
イオの性器に擦りつけている。

「ッ!?」
何か……当たって……」

「おまんこビクつかせちゃって
期待してたの?」
すぐ奥までハメてあげるからね」

「ちが……」
「やっ……まんま……お願いっ……」

!?

じゅぽ……

ゴクゴク



「ひぐっ……りか……はあ……」

「うお……すげえ締付け……
こんなまんこしてて今まで恋愛経験ないとか
まじかよ……」

（お、大きい……お股避けちやう……!）

「最初はちよっと痛いかもだけど
すぐに気持ちよくなるからね
ほら奥まで行くよっ……」

男はペニスを更に奥へと突きこむ。

「ひう!?」

（うそ、まだ入ってくる……?）

「かわいい反応するなあ
ほれぐらぐら……」

「ほむらさ……♡」

ズツッ!!!



「ははっ挿れただけでイツちやったね」

「はあ、はあ……ぬ、抜いてえ……」

「ダメダメ、これだけで満足するわけ
ないじゃん
これからが本番なんだからっ」

（耐えるのよ……みんなのために……
我慢しなきゃ……！）

ニキニキ

ズル〜

ビビ
ビビ



「ひやつ、あつ、ああつ♡
きゅ、急な出し入れっ……すごっ♡」

男が乱暴に腰を打ち付けるたびに、
結合部からイヤらしい音が響く。

「ははは、突くたびにスケベな汁が
どんどん溢れてるよ」

おすぢぢ

おすぢぢ

おすぢぢ

「ああんっ♡だめっ♡

感じちゃダメなのに……気持ちいいの
止まらないの……もうやめてえ……♡」

「んっ……ごっが気持ちいいのが
言ってくれないとやめられないよ?」

あっ♡

はっ♡

「……お、おまんこが気持ちいいのっ……♡
さっきからずっと感じてるのっ……♡」

その後、男は宣言通りイオをたっぷりと犯し続けた。

「ひゃああんっ………♡激し………んはあっ♡
おちんぼっ………♡おちんぼ好きい………♡♡」

「ははは、素直になってきたね〜
とても教師とは思えない乱れっぷりじゃん」

「ああん♡だってえ………♡
あなたのおちんぼが気持ちよすぎるから………♡♡」

すっかり快楽に抗えなくなったイオは、
膣内をぎゅっつと締めつけて射精のおねだりをした。

「くぅ、搾られるツ！
イオッ！出すぞっ！」

「あひいっ………♡きちやう………またきちやうっ………♡♡
「ふ〜、こんだけ射精しても全然収まらないや」

愛液でどろどろになった膣内からペニスが引き抜かれる。
コンドームには子種汁がたっぷり溜まっていた。

（あ、あんなに沢山の精液………♡
もし膣内に出されちゃったら………♡♡）

男は衰えることの無いペニスを膣口にあてがう。

「あつ……♥生おちんぽ挿れられちゃう……♥」

「…ゴム切れたし、今日はここまでにしようか」

「えっ……」

「いや、俺はこのまま続けてもいいんだけどね。

先生がシたいなら、先生の口から
言ってもらわないと♥」

男はそう言いながら、

亀頭の先端をイオのクリトリスに
押し当て動かし続ける。

「ひゃっ……そ、そんな……っ♥んっ……♥」

ドキ
ドキ

ちゅぷ
すちっ♥

「このままだと妊娠させられちゃう……
でも、生おちんぽほしい……♥
濃厚な精液、おなかにいっぱいもらって
きもちよくなりしたい……♥♥」

「ほらほら、どうしたいか言ってみて」

「い、挿れて欲しい……です……」

「んっ……よく聞き取れないなあ。
もっと何をどう挿れてほしいのか
はつきり言わないと」

「あ、あなたの生おちんぽをっ♡
わたしの……お、おまんこに
挿れてめちゃくちゃにして……欲しいです……♡」

「くっく、よく言えました」

ズリッ
ズリッ
ズルッ
ズルッ

うず♡うず♡





あ
い
ん

あ
い
ん

ズン
ズン

「おほっ、生まんごの締め付けやばっ……」
「ふあっ♡んはあああっ♡んは入ってるう……♡♡」
「あっ♡んんっ……♡」
「おっきいの、奥まできてるう……♡♡」

ズン

「あうっ♡んっ♡はげしっ♡はひっ……♡ああっ♡♡♡」

男が腰を激しく打ち付けるたびに、
イオの子宮がキyunと反応する。

「チンポが甘噛みされるみたいに締め付けられるっ…
そんなに生チンポが欲しかったかこの淫行教師！」

「だ、だめな教師でごめんなひやいい…♡
あなたのおちんぼすごすぎてえ…あたまバカに
なっちやうのおおっ……♡♡♡」

「そおらっ好きなただけ膣内に注いでやるからな！
しっかり味わえっ!!!」

「ひあっ!?何かくるっ♡きちやうっうっ♡♡♡」

「あぁっ♡♡♡」

ドロネ...

「あっ♥はあっ.....♥せーえきでえ...おなかいっぱい♥♥♥」

「ふう、先生のマンコ最高だよ
今日は孕むまで種付けしてあげるからね」

「うれしいい...♥赤ちゃん出来ちゃうまで...
いっぱいハメハメしてください...♥」

あーい

あーい

